

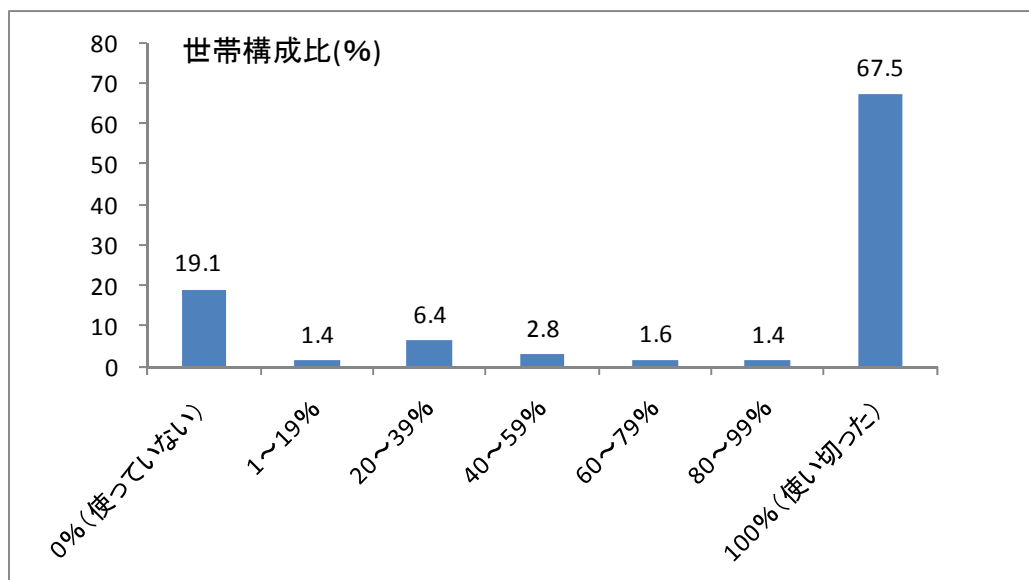
Ⅱ. 定額給付金はどのように使われたか

(1) 約7割の世帯が、受け取ってから半年以内に全額使いきる

2009年3月から2009年11月にわたり、各自治体から世帯に対して、「定額給付金」が給付された（給付対象者1人につき12,000円。ただし、基準日において65歳以上の者および18歳以下の者については20,000円）。ちなみに受け取り平均金額は5万2,600円であった。この定額給付金は、どのように使われたのだろうか。

本調査が行われた10月時点では、ほとんどの世帯が給付金を受け取っている（96.3%）。そのうち、67.5%の世帯では、定額給付金をすでに全額使いきっていた（図表Ⅱ-1）。定額給付金が支給されても、それを長く貯蓄して、あまり使わずにいた世帯は、全体の中では少数派であったことが分かる。

図表Ⅱ-1 定額給付金を使った割合



(2) 定額給付金の半分は日常の買い物に、2割は今まで買えなかったものに

多くの世帯で定額給付金が使われていたことが分かったが、その定額給付金は何を買うために使われたのだろうか。

全世帯の調査結果をみると、「日常の買い物にまわした」割合が最も多い(53.3%)。給付金の半分程度は日常の買い物にまわされたことが分かる。一方で、「いままで買えなかったもの」を買うのに使った金額の割合は22.5%であった(図表Ⅱ-2)。

しかし、世帯収入が増加したか減少したかによって定額給付金の使いみちは異なっている。収入が減少した世帯では、他のグループに比べて、給付金を「日常の買い物にまわした」割合が大きい。ただ、所得が低下した世帯においても、給付金の約20%を「いままで買えなかったもの」の購入にまわしており、定額給付金は消費の増加に一定の影響を与えていたことが分かる。

図表Ⅱ-2 収入増減別にみた定額給付金の使いみち

	全世帯 1,346世帯	世帯収入 減少 484世帯 (5%以上減少)	世帯収入 維持 385世帯 (-5%~+5%)	世帯収入 増加 477世帯 (5%以上増加)
支出したうち、各使いみちにまわした割合	%	%	%	%
日常の買い物にまわした	53.3	58.3	50.4	50.7
いままで買えなかったものを買った	22.5	19.4	25.7	23.0
普段より高価なものを買った	9.2	7.6	9.5	10.7
普段よりたくさん買い物をした	6.6	5.6	6.9	7.4
わからない・その人のための支出がなかった	8.4	9.2	7.5	8.3
合計	100.0	100.0	100.0	100.0

(3) 定額給付金の6割は家族共通のために、2割は子どものために

定額給付金が誰のために使われたかをみると、有配偶世帯で、最も大きな割合を占めていたのは「家族共通のため」(63.3%)であり、続いて「子どものため」(17.7%)であった。「家族共通のため」と「子どものため」の支出で、給付金の約8割が使われていたことになる。

無配偶世帯では、「自分のため」(45.6%)に給付金のほぼ半分を使っており、また給付金の3割を「家族共通のため」の支出にあてていた。

図表Ⅱ-3 定額給付金の配分

